

市民団体がシンポジウム開催！ 「リニア中央新幹線は必要か？」 JR東海の対応に批判集中！

経済的見通しの甘さ・環境・人体への影響などを指摘！
「冷静な議論を棚上げ・拙速な事業の推進に
歯止めをかけなければならない」と訴える！

3月28日、東京都内で市民団体「リニア・市民ネット」が主催するシンポジウム『リニア中央新幹線は必要か？』が開催されました。シンポジウムには、専門家、沿線住民、環境団体、そして、私たち労働組合など多くの賛同団体・市民約200名が参加しました。6名のパネラーからは、会社が推し進めるリニア中央新幹線構想の経済的見通しの甘さ、環境・人体への影響など厳しい指摘が相次ぎ、JR東海労鈴木委員長からも、当該企業の労働者の立場で、リニア中央新幹線構想が働く者にとって、どのような影響を与えようとしているのかなどを参加者に訴えかけました。



鈴木委員長がパネラーとして参加



29日岐阜新聞

リニア計画
問題点指摘
都内でシンポ

JR東海が東京―大阪で計画するリニア中央新幹線の必要性を検証するシンポジウムが28日、市民ら約200人が出席して都内で開かれ、専門家や地元住民らがリニア計画の経済的な見通しの甘さなどを指摘した。

橋山礼治郎明星大学教授（公共計画）は「1県1駅では乗る人も限られ、県内でも他の地域の人には何の影響もない」とリニアの利便性や経済効果に疑問を示した。電磁波環境研究所の荻野晃也所長は電磁波が人体に与える影響を指摘し「危険性が確定していない時は実施しないという予防原則の思想から、リニアは時期尚早」と強調した。

長野県大鹿村で自治会長を務めるサイモン・ピゴットさんは、超音速旅客機コンコルドを例に「夢の飛行機と言われたが、騒音、設備維持のコストの高さ、経済性がないとの（運航中止の）結果だった」として、リニア計画の議論をより広く行うよう訴えた。

200名の専門家・沿線住民などが集い、「リニア中央新幹線」構想を検証！